



## D コマンド

---

この章では、D で始まる基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。

# databits

端末ポートの文字に含まれるデータ ビット数を設定するには、**databits** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**databits** *bits*

**no databits** *bits*

## 構文の説明

|             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| <i>bits</i> | 1 文字中のデータ ビット数。有効な範囲は 5 ~ 8 です。 |
|-------------|---------------------------------|

## コマンド デフォルト

8 ビット

## コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。

## 例

次に、コンソール ポートのデータ ビット数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# databits 7
```

次に、コンソール ポートのデータ ビット数をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no databits 7
```

## 関連コマンド

| コマンド             | 説明                        |
|------------------|---------------------------|
| <b>show line</b> | コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。 |

# debug logfile

指定のファイルに **debug** コマンドの結果を出力するには、**debug logfile** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug logfile** *filename* [*size bytes*]

**no debug logfile** *filename* [*size bytes*]

| 構文の説明             |   |
|-------------------|---|
| <i>filename</i>   | <b>debug</b> コマンドの出力ファイルの名前。ファイル名は、最大 64 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別されます。 |
| <i>size bytes</i> | (任意) ログ ファイルのサイズをバイト単位で指定します。有効な範囲は 4096 ~ 4194304 です。              |

コマンドデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

| コマンド履歴 | リリース         | 変更内容            |
|--------|--------------|-----------------|
|        | 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

**使用上のガイドライン** Cisco NX-OS ソフトウェアは、log: ファイル システム ルート ディレクトリにログ ファイルを作成します。ログ ファイルを表示するには、**dir log:** コマンドを使用します。

**例** 次に、デバッグ ログ ファイルを指定する例を示します。

```
switch# debug logfile debug_log
```

次に、デフォルトのデバッグ ログ ファイルに戻す例を示します。

```
switch# no debug logfile debug_log
```

| 関連コマンド | コマンド                      | 説明                     |
|--------|---------------------------|------------------------|
|        | <b>dir</b>                | ディレクトリの内容を表示します。       |
|        | <b>show debug logfile</b> | デバッグ ログ ファイルの内容を表示します。 |

# debug logging

**debug** コマンド出力のロギングをイネーブルにするには、**debug logging** コマンドを使用します。デバッグロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug logging**

**no debug logging**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

ディセーブル

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 例

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# debug logging
```

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# no debug logging
```

## 関連コマンド

| コマンド                 | 説明                                 |
|----------------------|------------------------------------|
| <b>debug logfile</b> | <b>debug</b> コマンド出力のログ ファイルを設定します。 |

# delete

ファイルまたはディレクトリを削除するには、**delete** コマンドを使用します。

```
delete [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

## 構文の説明

|                    |  |
|--------------------|--|
| <i>filesystem:</i> | (任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> 、 <b>debug</b> 、 <b>log</b> 、 <b>modflash</b> または <b>volatile</b> です。  |
| <i>//server/</i>   | (任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ ( <b>//</b> ) を含む必要があります。 |
| <i>directory</i>   | (任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。   |
| <i>filename</i>    | 削除するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されません。   |



(注)

*filesystem://server/directory/filename* スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

削除するファイルを見つけるには、**dir** コマンドを使用します。

**delete** コマンドでディレクトリを削除すると、その内容も削除されます。このコマンドでディレクトリを削除する場合は、注意が必要です。

## 例

次に、ファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash:old_config.cfg
```

次に、ディレクトリを削除する例を示します。

```
switch# delete my_dir
This is a directory. Do you want to continue (y/n)? [y] y
```

## 関連コマンド

| コマンド              | 説明                           |
|-------------------|------------------------------|
| <code>dir</code>  | ディレクトリの内容を表示します。             |
| <code>save</code> | コンフィギュレーションセッションをファイルに保存します。 |

# dir

ディレクトリの内容を表示するには、**dir** コマンドを使用します。

```
dir [filesystem:] [//server/] [directory]
```

## 構文の説明

|                    |   |
|--------------------|---|
| <i>filesystem:</i> | (任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> 、 <b>debug</b> 、 <b>log</b> 、 <b>modflash</b> または <b>volatile</b> です。                                   |
| <i>//server/</i>   | (任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。 |
| <i>directory</i>   | (任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。  |



(注) *filesystem://server/directory* スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

現在の作業ディレクトリの内容を表示します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

**dir** コマンドを使用すると、指定したディレクトリにあるファイルのリストが表示されます。各ファイルについては、ファイルのサイズ (バイト単位)、最終変更日時、ファイル名のリストが表示されます。その後、ファイル システムの使用に関する統計が表示されます。

現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。

現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

## 例

次に、ブートフラッシュのルート ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash:
```

次に、現在の作業ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir
```

## 関連コマンド

| コマンド                | 説明                   |
|---------------------|----------------------|
| <code>cd</code>     | 現在の作業ディレクトリを変更します。   |
| <code>delete</code> | ファイルまたはディレクトリを削除します。 |
| <code>pwd</code>    | 現在の作業ディレクトリ名を表示します。  |
| <code>rmdir</code>  | ディレクトリを削除します。        |